

1918年最強ドイツ軍はなぜ敗れたのか
ドイツ・システムの強さと脆さ (文春新書)

文春新書

1149

1918年最強ドイツ軍は なぜ敗れたのか

ドイツ・システムの強さと脆さ

飯倉 章



文藝春秋

発売日: 2017年12月20日

出版: 文藝春秋

著者: 飯倉 章

ページ: 251

PDF

第一次世界大戦100年目の真実。第一次世界大戦末期、1918年の「春季大攻勢」でドイツ軍は連合軍の塹壕線を突破、戦術的な「大成功」を収めた。しかし、それからわずか半年後には降伏することとなったのはなぜなのか。ドイツ国内での革命や裏切りのために敗れたという歴史観もあるがそれは真実なのか。ドイツ軍の頂点に立ち、その強さの象徴であった参謀本部とそのリーダーたちは対処したのか。容赦なく勝つことはできても、上手に負けることができないドイツというシステムを徹底検証。19世紀から今日にまで続くドイツ・システムの強さの要因とともに、その危険性について探った！

<https://rapidgator.net/file/83f03d9985e3fe6033f7102d5aaef01e/p0Vt8IKbb.pdf.rar.html>